

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <p>《教育方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 初等部聖句 「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」 ルカによる福音書2章40節 <p>《4つの柱》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎聖書・礼拝 礼拝や聖書の時間を通じて、人を思いやる気持ち、小さなことに感謝できる心を育む。 ◎国際理解 英語力を高め、コミュニケーションを楽しみながら、異なる価値観の獲得をめざす。 ◎全員参加・理解 みんなで主体的に問題解決を図りながら、確かな学力の獲得をめざす。 ◎本物 文化、スポーツ、芸術、自然に触れる機会を通じて、豊かな感性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎キリスト教主義に基づく全人教育と“Mastery for Service”の具現化 すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」でめざす子ども像を具体的にイメージし、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育を実践している。 ◎聖書・礼拝 日常生活の様々な場面で、他者に関心を持ち、思いやりの心を注ぐことができる子どもが育っている。 ◎国際理解 英語が好きになるとともに、英語スキルが十分に定着する光の時間が行われている。 ◎全員参加・理解 すべての子どもの思考をアクティブにすることで、確かな学力の定着をめざす授業を展開している。 ◎本物 直接的に人、社会、自然に関わる教育プログラムが系統的に行われている。
<p>2. 児童・生徒獲得の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎魅力ある学校づくり（上記参照） ◎広報活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・入試イベントの充実 ・幼児教室訪問の継続 ・学校紹介開催 ・WEBによる広告の拡大 ◎入試方法変更 	<ul style="list-style-type: none"> ◎すべての教員が「キリスト教主義に基づく全人教育」における4つの柱を具体的にイメージしている。 ◎すべての教員が、志願者確保に高い関心を持ち、積極的に広報活動に協力している。 ◎A入試、B入試の実施
<p>3. 中期的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎志願者の確保 ◎英語力の向上 ◎教育課程の改善(宿泊的行事) ◎配慮が必要な児童へのサポート ◎教員が欠けた場合のセーフティーネット ◎校務の適正化 ◎ICT機器、各教科備品の更新 ◎初・中・高間での情報及び学力観の共有 	

【重点施策】	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに○
①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
②志願者の確保	
③英語力の向上	
④教育課程の改善(宿泊的行事)	
⑤配慮が必要な児童へのサポート	

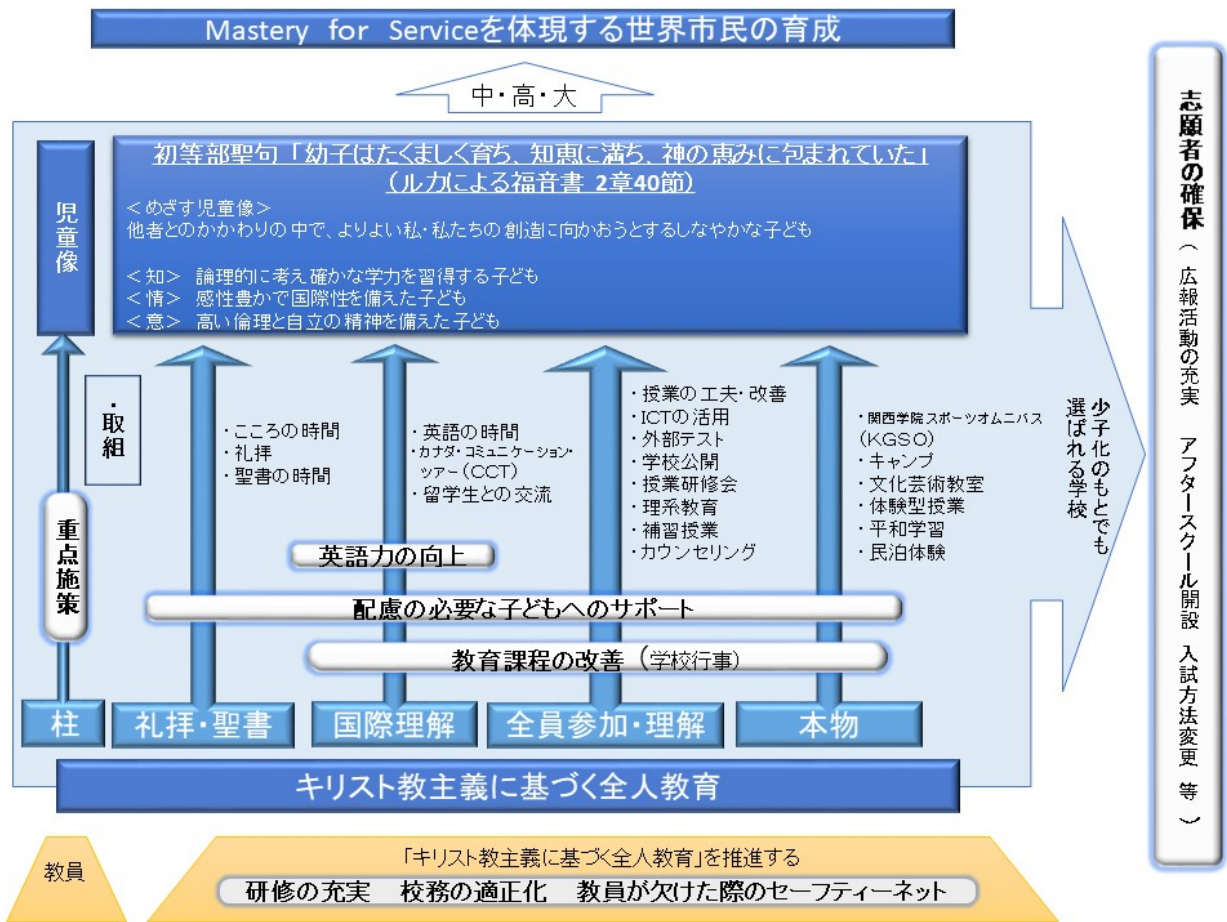
【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

①スクールモットーの認知度・共感度、②志願者数、③-1 英語授業への関心、③-2 英語授業での理解度、③-3 英語の習得、④教育課程の改善、⑤-1 友達や教師との信頼関係、⑤-2 カウンセリング体制

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2021年3月時点)

- ②「志願者の確保」については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、各種入試行事を全てオンラインで実施した。入学試験は、3密を避けるために親子面接及び幼児への面接(口頭試問)で行うこととし、受験者の不安をできるだけ回避するようにした。さらに、9月、10月、1月の3回試験日を設定した。結果として志願者を239名と大きく増加させることができた。次年度もコロナの影響を考慮しながら対面とオンラインを併用するなど、柔軟に受験者増となる取り組みを進めたい。
- ③「英語力の向上」については、2020年度から3年生以上の授業時数を増やし、全学年が毎日英語に触れることができるようにした。また、BYODにより全児童がタブレット端末を持つ環境を整えるとともに、ICT教材(スタディサプリ、スイッチオン)を導入し、児童が個に応じた学習を主体的に進めることで英語への興味関心を高めるとともに、少人数指導などの英語力をさらに向上させる取り組みを充実させたい。
- ④教育課程の改善については、各教科の授業時数確保を図るとともに、英語の授業時数増を行った。今後も児童の過重負担とならない範囲で改善を進めたい。9月にBYODの導入により全児童がタブレット端末を持つ環境が整い、授業へのICTの導入が大幅に進展した。教員のICT使用意識も高まり、これまでの学習方法から新たな工夫や改善を図る取り組みをさらに発展させたい。さらに、全教育活動を通じた心の教育の充実を図り、“Mastery for Service”の体現をめざした教育をさらに推進させていきたい。(①にも関連)
- ⑤「配慮が必要な児童へのサポート」については、スクールカウンセラーを中心としたカウンセリング体制を有効に機能させるとともに、校内カウンセリング委員会を通じて常に全職員が必要な情報を共有し全員で配慮が必要な児童をサポートできるように努めた。全職員が同じ意識をもって配慮が必要な児童を支える体制をさらに充実させたい。また、聖和キャンパス子どもセンターや公的関係機関との連携をさらに深めて、子ども一人一人に寄り添ったサポート体制を充実させたい。

【取り組みの全体像】



以上